

個人懇談、ありがとうございました

先週は、ご多用の中、そして大変暑い中、個人懇談にお越しいただき、誠にありがとうございました。学習や生活面について、学校、ご家庭、それぞれの様子をお話できたこと、とても有意義だったと思います。お話いただいたことをもとに、子ども達の教育に一層尽力していきたいと思います。今後とも、何卒よろしくお願いいたします。

お知らせ

○本校第1回卒業生 渡邊りか子 さん企画・脚本・監督・出演による映画が完成 (本校体育館で撮影)

令和6年度「校長室だより」NO 14 (7/8)でお伝えしていた本校の第2回卒業生で俳優の渡邊梨香子(芸名 渡邊りか子)さんが監督した映画「すとん」「心玉」の二本が東京で上映されます。好評ならば、福岡でも上映されるそうです。「心玉」は、本校の体育館も撮影場所として使用されています。卒業生の方がこのように様々なジャンルで活躍していることを誇らしく思います。

※「心玉」…摩擦によってできる服の毛玉のように、気持ちの摩擦によってできたもの

「すとん」…人生の途中で、腹に落ちた瞬間、自分にしか聞こえない音。

(映画「すとん」「心玉」のチラシより抜粋)



感じたことから

○“共感して聞く” ことについて

学級では、15～20名ほどの子どもが集まって生活しています。これだけたくさんの人数がいると、何らかのトラブルが起こってしまうことは仕方のないことかもしれません。それがもとで子ども達の心の中のもやもや(「心玉」?…上記の映画での意味と違っていたらごめんなさい)が膨らみ、さらにストレスとなり、精神的なダメージが大きくなってしまえば大変です。そんなときに、仲の良い友達にその不満を吐き出すことはある意味必要なことかもしれません。その不満を聞いた子は、まずは否定せずにしっかり耳を傾け、うなづき、共感することが大切なのでしょう。それだけで、相談した相手の心はすっと軽くなる(「心玉」がほぐれる)はずです。

ただ、そこで気を付けなければならないのは、“共感すること”と“事実として受け止めること”とは別のもの、だということです。不満がたまっていた相手がその不満を吐き出すときは、何といってもその人の立場からしか話をしていません。トラブルがあったもう一方はその人の立場で別の言い分があるはず。その両者をすりあわせてある程度は事実が見えてきます。ところが、子ども達の中でよくあるのは、仲良しの関係を崩したくない思いも働き、相手の不満を全て事実として受け止めてしまうことです。

さらに、そのことが別の他者に広がり、事実として確認できていないことが、さも事実であるように独り歩きしてしまうのです。子ども達のなかであってはならない“いじめ”は、こうしたことがきっかけになることがあります。

また、このことは得てして、**大人の間でも起こりがち**です。“子ども相談を受けた保護者の方”“ある保護者の方からの相談を受けた別の保護者の方”…。一方の受け止め方が事実として広まった場合、どこかに辛い思いをする人が出てくるかもしれません。

そしてさらに、**子どもでも、大人でもメールやLINEのやり取りの中で**、こうした傾向は助長されているように思います。

もし、学校に関する何かトラブルが見られた場合、**上記の図の“すり合わせ”ができるのは学校に他なりません**。どうか、何らかの事実の確認が必要な場合は、学校にご連絡ください。できる限りの状況確認をしたいと思います。もし、事実が判明した場合、これまでの“もやもや”が「すとん」と腑に落ち、皆が納得できるようになると嬉しく思います。

※ここで用いた「心玉」や「すとん」の意味が映画で用いられた使い方と違っていたら申し訳ありません。

